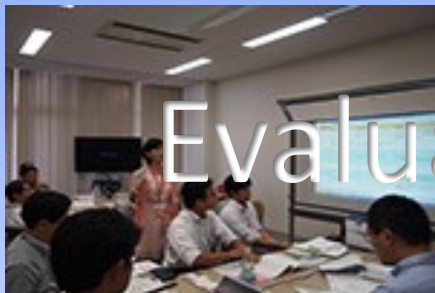




自己評価能力を高めるための 目的・計画と指標の作り方に 関する研修会 ーステップ3ー



Evaluability

平成26年
2月7日(金)

10:30~16:00

※10:00受付開始



Assessment

学術総合センター11階
(東京都千代田区一ツ橋2-1-2)

大学評価・学位授与機構
竹橋オフィス1112会議室

目的番号	目的	評価質問	指標
6-1	短期留学が長期留学につながっているか	短期留学が長期留学につながっているか	短期留学総数における長期留学数(比率)
6-1-1	短期留學生の履修状況を把握しているか	短期留學生が長期留学につながっているか	短期留學生のうち、長期留学に行った動機
6-1-1-1	長期留学につながるような短期プログラムができていますか	長期留学につながるような短期プログラムができていますか	
6-1-1-1-1	短期留学の目的が明確であるか	短期留学の目的が明確であるか	目的の記述要素(具体性、数値目標、プログラムによる養成像)

Phase 3

参加費： 無料
定員： 40名*

*定員に達し次第、申し込みを締め切らせていただきます。

想定する参加者：

これまでの研修会等(「大学評価担当者集会2012」第三分科会〔平成24年9月6日開催〕、「自己評価能力を高めるための目的・計画と指標の作り方に係る研修会」〔平成25年2月8日開催〕、「自己評価能力を高めるための目的・計画と指標の作り方(ステップ1&2)」〔平成25年11月20日開催〕でステップ1&2の講義を受講いただいた方、またはPCM(プロジェクト・サイクル・マネジメント)について知識を有する方。

<申し込み方法>

大学評価・学位授与機構Webサイトの「シンポジウム・セミナー」カテゴリにある本研修会の専用申込フォームから必要事項をご記入のうえ、ご登録願います。

※URLは、裏面最下部をご覧ください。

研修会のねらい

大学評価・学位授与機構のEA (Evaluability Assessment) 研究会で開発している教材及びコンテンツを基に、自己評価能力を向上させるための基本的な視点を学ぶとともに、計画立案段階で現行の課題や問題を可能な限り把握し、適切な指標等の設定を行うための研修会を開催させていただきます。

本研修会では、自らの大学の目的および計画に適した指標をどのように設定していくのか、それをどう進行管理や評価にいかしていくのかという点について学び、共に考えていきます。

表1：ツールの各段階と獲得することが期待されるスキル

段階	ツールの内容	獲得することが期待されるスキル
ステップ1 〔おさらい〕	関係者（ステイクホルダー）の把握、課題の分析	○自らの大学の現状と課題を体系的に整理する思考方法やスキル ○教育の質向上という視点で、大学の諸活動の中から課題を発見し、その周辺の因果関係の整理を行うことができるスキル
ステップ2 〔おさらい〕	目的の整理、計画の作り方	○目的を体系立てて整理する思考方法、目的体系図から計画アプローチを見出すスキル ○因果関係を逆にたどることで、課題解決のためのアプローチを考えることができるスキル
ステップ3 〔今回のテーマ〕	指標デザインとデータの整理	○ステップ1 & 2で考案した課題解決のためのアプローチ（課題を解決するという目的に沿った計画の作り方）に対して、適切な指標を提案するスキル
ステップ4 〔ツール構築中〕	効果的・効率的な評価	○評価の目的を明確にし、協力体制の構築や評価結果を有効に活用するためのマインドセットに繋げるスキル

タイムテーブルと研修内容

10:30～10:35 主催者挨拶

10:35～12:30 講義とミニ演習

○講義では、ステップ1&2のおさらい、ステップ3の説明及び指標設定において留意すべき点等について説明します。

○ミニ演習では、午後の演習に向けて、指標設定に係る簡単な個人ワークを実施します。

12:30～13:30 昼食・休憩

13:30～15:05 演習

○演習では、架空の大学の事例を基に作成した目的体系図を用いて、班ごとに指標設定作業を行っていただきます。

・班分けについては、運営をスムーズに進めるため、事務局で行います。

・各班には、このツールの開発に携わっている研究会メンバーがファシリテータとして参加させていただきます。

15:05～15:20 休憩

15:20～16:00 演習の結果発表とまとめ

○各班から演習の結果を発表していただき、それを議論することで、自らの大学の目的や計画に適した指標をどのように設定してゆくことができるのかについての理解を深めます。

表2：各段階における研修内容

（今回の研修会はステップ3の内容で実施します）

「ステップ1：関係者の把握、課題・問題の分析」
 ・関係者を把握し、大学における諸活動から課題を発見します。課題を複数挙げ、その課題の原因を考えつつ、課題（原因→結果のペア）をグループ化していきます。
 ・途中で、中心的な問題が見えてきますので、それを中心に各グループに関連づけていきます。（中心になる問題をどう設定するかは、グループのメンバーの考え方や活動を取り囲む環境によって異なります。）
 ◇これらの作業によって、各課題の因果関係を明確にします。

「ステップ2：目的の整理、計画の作り方」
 ・ステップ1で分析した「原因→結果」を「手段→目的」とリバースさせることで「こういう原因でこういう課題が発生している」ということが「ここをやれば、この課題が解決できる」という図になります。この図を目的系図といいます。
 ・目的系図は、いくつかの課題をひとまとまりにし、グループ化したわけですが、課題が適切に関連づけられた目的系図があれば、「改善計画」が見出しやすくなります。
 ◇課題を原因と結果の因果関係で整理することで、解決と改善のアプローチを見出します。

「ステップ3：指標デザインとデータの整理」
 ・改善計画を実施する際の指標を考えます。課題は「目的→手段」という単位で最初に整理をしているため、この単位ごとに指標を考えていきます。
 ◇指標を設定すれば、あとはその指標が現在どうなっていて、それをどうしたいのか、ということで改善計画を現実化し、それに沿って行動できます。この指標を用いて進行管理をするという、評価担当者の責務を果たすためのヒントを見出します。

<問い合わせ先>

大学評価・学位授与機構 評価事業部 評価企画課 企画第1係

Tel : 042-307-1615 / Fax : 042-307-1622 E-mail: hyokikaku2@niad.ac.jp

http://www.niad.ac.jp/n_kenkyukai/1231951_1207.html